

きららだより

平成29年
4月号

4月の予定

1	土	
2	日	
3	月	入園進級式
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	内科健診
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	視聴覚検査(うみ組)
18	火	きららっこクラブ①
19	水	
20	木	
21	金	☆4月生誕生会
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	お弁当の日
29	土	昭和の日
30	日	

5月の主な予定

- 13日(土) 親子遠足
- 16日(火) きららっこクラブ②
- 17日(水) 尿検査
- 18日(木) 尿検査
- 19日(金) 5月生誕生会

その他避難訓練・身体測定

ご入園、ご進級おめでとうございます。

3月の終わりは寒い日もありましたが、春の暖かい日射しが戻ってきました。桜や秋に卒園児が植えたチューリップたちももうすぐ、色とりどりの花を咲かせてくれることでしょう。

さて、今年は19名の新入園児を迎え、新しい年度が始まりました。慣らし保育の間は「ママー、ママがいい」と泣き叫ぶ声が聞こえます。子どもにとって初めての過酷な経験。でも、私たちは毎年、その子どもたちが生き生きとして保育園で過ごす姿に出会います。後ろ髪をひかれながらお仕事に行くのは辛いことです。でも、子どもを預けて仕事をしたいと決めたのです。子どもの力を信じて、そして私たちを信頼してお出かけください。笑顔で過ごせる日はもうすぐです。絶対乗り越えられますから見守ってあげてください。泣き始めてもできるだけ早く子どもから離れてあげましょう。「行ってくるからね。迎えに来るからね。」という声掛けは忘れずに。遊んでいるからとそっと出かけるのは子どもの信頼を失います。

今日から職員も新体制になりましたが、今年も子どもたち一人ひとりの育ちにそった援助をさせていただきたいと思っております。きらら保育園が安心して過ごせる場所となるように、より環境を整えていきます。心配なこと、不安なことなどがありましたら、その都度ご相談してください。どんなことでも話し合って気持ちを共有していきましょう。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

退職・異動・新任の職員

異動、退職される先生です。今までお世話になりました。

異動：きらら子どもの家へ

退職：

異動、復帰、新人の先生です。よろしくお願いいたします。

異動：かのん保育園から

育休から復職：

新任：

土曜保育について

土曜保育が午前7時から午後6時までになります。利用方法は今まで同様水曜日朝までに玄関前の土曜保育日誌のボードに名前と希望保育時間をお書きください。詳細は掲示等でお知らせしていますのでご確認ください。

年間予定表について

オリエンテーションで配布しました予定表は、変更することがありますので、園だより、掲示版でご確認ください。

クラスだよりの変更について

保護者の方に保育園の様子をよりわかりやすくお伝えするために写真を多く入れた形に変更します。ホームページに写真掲載の同意書をいただいておりますが、園内のパスワード付に同意していただいたお子さんの写真はのせさせていただくことがあります。これは保護者向けであり、それぞれの家庭から外部に流出しないようにお願いします。同意を得られていない方は園から確認をすることがありますのでご協力をお願いします。

最後のとき

子育てで真っ只中の保護者のみなさん。楽しいこともたくさん味わうことができますが、お仕事の両立で大変なこともたくさんあるでしょう。でも、それもいつまでも続くわけではありません。新年度始まったばかりのこの時だからこそこの詩を紹介したいと思います。

「最後のとき」

赤ちゃんをその腕に抱いた瞬間から、あなたはこれまでとは全く違う人生を生きる
以前の自分に戻りたいと思うかもしれない

自由と時間があって 心配することなど何もなかったあの頃の自分に
今まで経験したことがないほどの徒労感 毎日毎日全く同じ日々
ミルクを与えて背中をさすってやり おむつを替えては泣かれて
ぐずられて嫌がられて 昼寝をしすぎてもしなくても心配で
終わることのない永遠の繰り返しに思えるかもしれない
だけど忘れないで…

すべてのことには「最後のとき」があるということを
ご飯を食べさせてやるのはこれが最後、というときがやってくる

長い一日の後、子どもがあなたの膝で寝てしまう

だけど眠っている子どもを抱くのもこれが最後

子どもを抱っこひもで抱えて出かける

だけど抱っこひもを使うのはこれが最後

夜はお風呂で髪を洗ってやる

だけど明日からはもう一人でできると言われる

道を渡るときには手を握ってくる

だけど手をつなぐのはこれが最後

夜中こっそり寝室にやってきてベッドにもぐりこんでくる

だけどそんな風に起されるのはこれが最後

昼下がりに歌いながら手遊びをする

だけどその歌を歌ってやるのはこれが最後

学校まで送っていけば行ってきますのキスをしてくる

だけど次の日からは一人でだいじょうぶと言われる

寝る前に本を読み聞かせて汚れた顔を拭いてやるのもこれが最後

子どもが両手を広げてあなたの胸に飛び込んでくるのもこれが最後

だけど「これが最後」ということはあなたはわからない

それがもう二度と起こらないのだと気付くころにはすでに時は流れてしまっている

だから今、あなたの人生のこの瞬間にも

たくさんの「最後」があることを忘れないで

もう二度とないのだと気付いてはじめて、あと一日でいいから、あと一度きりでいいから、
と切望するような大切な「最後のとき」があることを

この詩は、子育て中の母親へのエールとして書かれているものだと思います。毎日大変な思いで子育てをしている母親に、もう一度、目の前の子どもを見つめなおしてほしい自分の親もそうだったかもしれない。気づいた時には過ぎてしまっている、宝物のような時間を大切にしてほしい、そんなメッセージが込められているような気がします。子どもが自分の手を離れて初めて母親は、ふと立ち止まり、そして振り返り「もっと抱きしめてあげればよかった」「一緒に遊んであげればよかった」「もっと話を聞いてあげればよかった」と考えるものです。そんな日が来るということを意識しながら今日の日を大切に過ごしましょう。

(YY 通信参考)